

平成28年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 1 - 37
事務事業名	地域おこし協力隊事業			担当課係	産業振興課 企業振興・商工港湾担当
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」		記入担当者	
	中項目	②産業の振興		内線等	
	小項目	4. 農水工商業の連携による地域資源の発掘や活用、魅力発信の強化		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	7	商工費	項	1 商工費
	目	2	商工業振興費	事業	9 地域おこし協力隊事業
開始年度	平成27	年度	根拠法令・要綱等	地域おこし協力隊推進要綱	

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 小松島市の人口は、現在減少傾向にあり地域の担い手である若者が不足しつつある。このため、商工観光振興、農林水産振興の各分野で「地域おこし協力隊」による活動支援を実施する。
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 人口減少や高齢化の進行が進む地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらいその定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 商工観光振興、農林水産振興の各分野で「地域おこし協力隊」の活動支援を実施する。 具体的には、3名を採用し①瀬戸地区において農業実習を重ねつつ地域の各行事や草刈り等の地域活動を実施する②地域課題である放置竹林対策として、竹灯籠を作成イベント等において活用を図り町おこし的手段として活用を図る③ホームページやフェイスブックで本市の魅力発信活動を実施。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 本市では、これまで商工団体や地元商店組織、NPO法人等への支援等を通じて祭りやイベントも含めた商工・観光業の振興を図ってきた。また、農林水産業の振興においても、農林水産業の関係団体等への支援を通じて農地・里山の維持や海面環境の保全、農林水産物のブランド化などの推進を図ってきた。しかしながら、これらの団体や組織が担っていた地域での取り組みも人手不足等で年々厳しくなっており、地域力の維持・強化のための新たな担い手となる人材の確保が必要となっている。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果
	協力隊員の数	協力隊員としての任命者数					
人	単位	H27	H28	H29	H30	目標年度 目標値	
	目標	3	3				
	実績	3	3				
	達成度	100.0%	100.0%				

活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H27	H28	H29	H30	指標の説明
	協力隊員の数	計画	人	3	3	3	
実績				3	3		
計画							
		実績					
計画							
		実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		27年度決算	28年度決算	28年度予算	29年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	6,831,996	11,239,347	11,773,000	12,000,000	
	財源内訳	国県支出金	6,831,996			
		地方債				
		利用者負担				
		一般財源		11,239,347		
	B 人件費 ①×②	798,432	855,402			
	職員平均人件費①	7,984,322	8,554,017			
従事した割合②/人	0.10	0.10				
A + B	7,630,428	12,094,749				
単位コスト	活動指標の説明	協力隊員の数 3人	協力隊員の数 3人		備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト	2,543,476	4,031,583		平成27年4月1日現在 人口39,866人	
	市民一人あたりのコスト	191	307		平成28年4月1日現在 人口39,358人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺状況等や今後の予測) 都市部の人材を地方へ移転させ、新鮮な発想で地域の諸問題解決、活性化を担ってもらうとの趣旨であり、各地方自治体の関心も高い。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 外部からの人材と交流することにより、改めて地域の魅力発見に繋がる事もあり本事業の意義は高い。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	市内の地域課題に、地域外の日線と新しい発想のもと課題解決を探ることができる。 地域おこし協力隊と地元住民との交流から新しい取り組み等が生まれる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	地域おこし協力隊推進要綱により、地域おこし協力隊は地方自治体で委嘱することとなっている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	市が直営で様々な事業をする訳ではなく、協力隊員が独自に地域で活動を実施してくれる。 特別交付税措置がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	小松島市においても人口減少傾向となっており、各地域・分野において担い手の不足が想定される。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	地域おこし協力隊の活動エリアにおいて、地元のお祭り等において地域住民とともに清掃活動や、お囃子への参加、放置竹林対策としての竹灯笼の飾り付け等も実施して、地域との繋がりができつつある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	地域おこし協力隊が、地域活動の任期終了後において、自立して生活し、定住してもらえるかが課題である。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2	3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	79	地域おこし協力隊は、地域の住民を巻き込んだ活動により、大きな成果に繋がっていくものと考えているが、その為には行政のサポートも重要となる。地域に入って成果に繋げるには一定の時間が必要であり、協力隊の意見も聞きながら、今後市としても対応していく必要がある。
	4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2		
	5 完了・休止・廃止	19 点 以下			

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2	3 改善・効率化し継続	今後とも、市としてのサポート体制の構築も踏まえ、現在の成果を見極めつつ事業の継続をはかるべきである。	
	4 終期設定し終了		
	5 完了・休止・廃止		